

(寄稿)

## 薬局経営 3.0 ～超高齢社会に求められる新しい経営戦略～

薬局経営 3.0 (以下、薬局 3.0) とは、次世代の薬局経営の業態である。

ファルメディコ株式会社の代表取締役社長で医師でもある狭間先生は、薬局経営を取り巻く環境変化に伴う業態のこれまでの変遷を薬局 1.0、薬局 2.0 の 2 タイプに分類し、これからの薬局経営の業態を薬局 3.0 と定義づけている (各業態変化の背景は本文を参照)。

薬局 3.0 の最大の特徴は、『薬剤師法 25 の 2』に義務付けされている薬学的知見に基づく指導を行うことにより、医療の担い手としての役割を最大限に果たすことと言えるであろう。

これまでの薬局業務と異なり、薬を交付する際の情報提供だけでなく、交付後の情報を収集し、薬学的見地から評価するという本来の職能を期待される場面が格段に増えることになる。

つまり、高齢者の患者の比率が高まる中、薬剤師の役割は、積極的に医師と患者とのコミュニケーションを図り、一種のメディエーターの役割を果たし、医療に貢献することにあると考えられる。例えば、「適正に服用されているか」、「効き目はどうか」、「副作用はないか」、「患者の生活環境上の問題は影響していないか」などモニタリングの役割もその一つとなるであろう。

本稿は、狭間先生に寄稿いただき、薬局経営者と医師の両方の立場からこれからの薬局経営の在り方を解説いただいた。

また、狭間先生には、医師として期待する薬剤師の薬学的知見や職能を、薬局 3.0 の実践的な取り組みの中で起こったエピソードなども交え紹介いただき、同時に今後の薬局 3.0 の課題について、解説いただいた。

在宅医療の担い手不足が深刻になる中、薬剤師が積極的にメディエーターとして加わることにより、より安全で質の高い在宅医療へ貢献することも期待できるのではないだろうか。

(市川)

2015 年 5 月 18 日

Healthcare note

(No. 15-05)

寄稿者名：  
ファルメディコ株式会社  
代表取締役社長  
狭間 研至

編集主幹：  
野村ヘルスケア・  
サポート&アドバイザー  
市川 剛志

野村證券株式会社  
金融公共公益法人部